

2014年1月10日提出

國學院大學 経済学部「演習IV」ゼミ卒業論文 (担当教員 小木曾道夫)

# 男女の恋愛実態と恋愛観から観る結婚について

中沢 佐智子

## 【目次】

1	はじめに.....	2
1-1	問題意識.....	2
1-2	データの出典.....	2
1-2-1	恋愛調査2013.....	2
1-2-2	マクロミル調査.....	3
1-2-3	リビジェン調査.....	3
2	恋人.....	3
2-1	現在の恋人の有無.....	3
2-2	恋人がいる人の恋愛生活観.....	4
2-3	恋人がいない人の「恋人が欲しい」願望.....	5
2-4	「恋人がいる人」「恋人が欲しい人」との違い(男性).....	6
2-5	「恋人がいる人」「恋人が欲しい人」との違い(女性).....	7
2-6	婚活.....	8
2-7	恋人との年齢差と付き合える相手の年齢幅.....	9
2-8	現在の恋人とどこで知り合ったか.....	10
2-9	恋人がいない期間.....	11
2-10	今までに付き合った人数.....	11
2-11	彼氏・彼女にしたい人へのアプローチ.....	12
3	結婚.....	13
3-1	男女の将来結婚したいと思う割合.....	13
3-2	恋人に求めるものと結婚相手に求めるもの.....	13
3-3	結婚生活後のスタイル.....	14
3-4	結婚したくない理由.....	15
3-5	結婚に対する考え方.....	16

3-7 将来的に子どもが欲しいか.....	17
まとめ.....	18

## 1 はじめに

### 1-1 問題意識

本論文では、現代の男女の恋愛に対する考え方について、どれだけの違いがあるかを明確にしていく。この目的のために、既存の調査結果に準拠して調べていく。

### 1-2 データの出典

この論文では、既存の調査から、リクルートブライダル総研「恋愛観調査 2013」(以下「恋愛観調査 2013」と略す)、マクロミル 結婚と恋愛に関する調査 (以下「マクロミル調査」と略す)、株式会社リビジェンのプレスリリース (2013年8月22日)「PRTIMES」(以下「リビジェン調査」と略す)、を参照した。

#### 1-2-1 恋愛観調査 2013

リクルートブライダル総研「恋愛観調査 2013」(以下、「恋愛観調査 2013」と略す)の調査方法は、インターネットによるアンケート調査で、調査期間は、2011年9月17日(土)～9月23日(金)である(表1)。調査対象は、首都圏(東京・神奈川・千葉・埼玉)、東海(愛知・岐阜・三重)、関西(大阪・兵庫・京都・奈良・滋賀・和歌山)在住で、「今現在、結婚していない(結婚はしたことがない)」と回答した20～30代の男女である。(ただ

表 1 恋愛観調査 2013 の有効回答者

男性	20～24 歳	341
	25～29 歳	295
	30～34 歳	237
	35～39 歳	127
	合計	1000
女性	20～24 歳	394
	25～29 歳	305
	30～34 歳	200
	35～39 歳	101
	合計	1000
全体合計		2000

(出所：恋愛観調査 2013:2)

し、「婚約中」と回答した人を除く。) 調査対象は、「総務省統計局平成 17 年国勢調査第 1 次基本集計結果の年代別未婚者数」を基に性別ごとに、年齢 (5 歳区切り) 別割合に近くなるようにサンプル数を割り付け、有効回答は男性 1,000 人女性 1,000 人 : 合計 2,000 人である。

### 1-2-2 マクロミル調査

インターネット調査会社の株式会社マクロミル (本社 : 東京都港区、代表 : 杉本哲哉) は、調査対象は 1 都 3 県 (東京都、千葉県、埼玉県、神奈川県) の 25~39 才の未婚男女に、「結婚と恋愛に関する調査」(以下、「マクロミル調査」と略す) を実施した。さらに、マクロミルが 2 年前に実施した調査と比較して結婚や恋愛における男女の意識の変化を調べた。調査手法はインターネットリサーチで、調査期間は 2011 年 1 月 24 日 (月) ~1 月 26 日 (水)。有効回答数は 500 名である (表 2)。

表 2 マクロミル調査の有効回答者

合計 500 サンプル		25~29 歳	30~34 歳	35~39 歳	小計	(参考) 20 ~24 歳
		男性	131	106	60	297
女性	101	68	34	203	50	

(出所 : マクロミル(2011:2))

### 1-2-3 リビジェン調査

IT ソリューション・アプリケーションのサービス提供を行う株式会社リビジェンは、全国の 20 代未婚男性を対象に「恋愛に関する調査」(以下、「リビジェン調査」と略す) を実施した(Vector Group, PR TIMES Inc. (2013))。リビジェン調査の調査手法はオンライン調査 (スマホリサーチ)、調査対象は全国の 20 代未婚男性 (スマートサーベイモニター会員)、有効回答数は 200 サンプル、調査日時は 2013 年 8 月 22 日 09:30~同日 13:15、調査地域は全国である。なお、リビジェン調査において、「あなたは現在恋人がいますか?」と質問したところ、「いる」が 43.5%(87 人)、「いない」が 56.5%(113 人)であった。

## 2 恋人

### 2-1 現在の恋人の有無

恋愛調査 2013 において、20 代から 30 代の未婚の男女それぞれ 1000 人に「現在恋人が

いるかどうか」をたずねたところ、全体では、「恋人がいる」人は、男性では 23.3%(233人)、女性では 34.2%(342人)、「恋人がいない」人は、男性では 76.7%(233人)、女性では 65.8%(342人)だった(表3)。

表 3 性・年齢階層別の現在の恋人の有無

	恋人がいる	恋人がいない
男性全体(#1000)	23.3%	76.7%
男性 20～24 歳(#341)	26.4%	73.6%
男性 25～29 歳(#295)	23.1%	76.9%
男性 30～34 歳(#237)	21.1%	78.9%
男性 35～39 歳(#127)	19.7%	80.3%
女性全体(#1000)	34.2%	65.8%
女性 20～24 歳(#394)	36.5%	63.5%
女性 25～29 歳(#305)	32.5%	67.5%
女性 30～34 歳(#200)	33.5%	66.5%
女性 35～39 歳(#101)	31.7%	68.3%

(出所：恋愛調査 2013:3)

年齢階層別では、まず、男性では、「恋人がいない」人の割合は、全体の 76.7%で、20～24歳では、73.6%。25～29歳では、76.9%。30～34歳では、78.9%。35～39歳では、80.3%であった。年齢が上がるにつれて「いない」人の割合が増加する現象にあり、未婚男性の35～39歳では「いない」が約8割となっている。

30代後半の未婚男性では「いない」が8割を占める。年齢階層別では、女性の「恋人がいない」人の割合は、全体で、65.8%。20～24歳では、63.5%。25～29歳では、67.5%。30～34歳では、66.5%。35～39歳では、68.3%であった。女性では20～24歳を除き年代による「いる」「いない」の割合に大きな差は見られなかった。

## 2-2 恋人がいる人の恋愛生活観

恋愛調査 2013 において、20代から30代の現在恋人がいる未婚の男女に、「恋人がいれば生活がどのように変わるか」を項目ごとにたずねたところ、合計がもっとも高かったのは男女ともに「好きな人と一緒にいられて嬉しい」(男性 82.4%、女性 98.5%)であった(表4)。恋人がいる人の恋愛生活観は様々である。「嬉しい」「楽しい」だけでなく「精神安定」や「困難時の支え」もある恋愛生活であった。ついで「生活が楽しくなる」(男性 79.0%、女性 93.3%)「精神的安静(安らぎ・寂しくないなど)が得られる」(男性 76.0%、女性 87.4%)

だった。性別では、「出費が増える」が男性 76.0%と「精神的安定が得られる」と同率で

表 4 性別の恋人がいれば生活がどのように変わるか (対象は現在恋人がいる未婚者)

	現在、恋人が いる男性 (#233)	現在、恋人 がいる女性 (#342)	男女の ポイン ト差(%)
好きな人と一緒にいられてうれしい	82.4%	96.5%	-14.1
生活が楽しくなる	79.0%	93.3%	-14.3
精神的安定(安らぎ・寂しくないなど)が得られる	76.0%	87.4%	-11.4
困難があった時に支えができる	73.0%	86.0%	-13.0
普段友人とは行かない場所(高級・カップル向けなど)に行ける	75.1%	78.1%	-3.0
出費が増える	76.0%	74.6%	1.4
恋人とデートや趣味等を一緒に楽しむためにいろいろな情報を集めたい	70.0%	76.0%	-6.0
性的な充足が得られる	72.1%	72.5%	-0.4
おしゃれを楽しんだり、生活が華やかになる	59.7%	76.0%	-16.3
記念日をお祝いしたり、プレゼントする機会が増えて楽しい	59.7%	72.8%	-13.1
自由な時間が減る	57.1%	50.3%	6.8
恋人以外の友人とのつきあいが減ってしまう	48.1%	44.4%	3.7
恋人の友達も含んだ新しい出会いやつきあいが増えてうれしい	36.5%	45.6%	-9.1
仕事や学業に打ち込める	30.9%	31.6%	-0.7
相手の親、兄弟姉妹と仲良くなれてうれしい	25.3%	33.9%	-8.6
経済的に助かる	27.9%	21.9%	6.0
相手の世話(家事や送り迎えなど)の負担が増えて面倒	19.7%	28.1%	-8.4
恋人の友達も含んだつきあいなどが増えて面倒	24.0%	22.2%	1.8

(出所：恋愛調査 2013:4)

あったのに対し、女性は「困難があった時に支えが出来る」が 86.0%と「精神的安定が得られる」とほぼ同率で高かった。男女のポイント差がもっとも大きかったのは、「おしゃれを楽しんだり、生活が華やかになる」で 16.4 ポイント女性が男性を上回った。男女の項目をみると圧倒的に女性の方が付き合っている方が恋人として「楽しい」「嬉しい」という項目数で高い数値を表した。逆に男性は、ネガティブな項目の「出費が増える」「自由な時間が減る」「恋人以外の友人の付き合いが減ってしまう」「相手の世話(家事や迎えなどの)負担が増えて、面倒」「恋人の友人を含んだ付き合いが面倒」などの項目が女性よりも男性の方が多かった。

### 2-3 恋人がいない人の「恋人が欲しい」願望

恋愛調査 2013 において、現在、恋人のいない男女に「恋人が欲しいかどうか」をたずね

たところ、「非常に欲しい」と「やや欲しい」とを足した「欲しい」割合は男性で(23.1%+33.4%=)56.5%(433人)、女性では(23.7%+33.0%=)56.7%(373人)とほぼ同じ割合となった(表5)。また「まったく欲しくない」と「あまり欲しくない」とを足した「欲しくない」割合の合計は男性で20.5%、女性では19.6%といずれも約2割程度で「欲しい」人を大きく下回った。

表5 性・年齢階層別の「恋人が欲しい」願望(対象は現在恋人がいない未婚者)

	まったく 欲しくない	あまり欲 しくない	どちらでも ない	やや欲し い	非常に欲 しい
男性全体(#767)	7.7%	12.8%	23.1%	33.4%	23.1%
男性20～24歳(#251)	7.2%	11.6%	22.7%	37.1%	21.5%
男性25～29歳(#227)	10.6%	14.5%	19.4%	32.2%	23.3%
男性30～34歳(#187)	5.3%	13.9%	24.1%	33.7%	23.0%
男性35～39歳(#102)	6.9%	9.8%	30.4%	26.5%	26.5%
女性全体(#658)	6.8%	12.8%	23.7%	33.0%	23.7%
女性20～24歳(#250)	6.0%	14.8%	18.8%	37.6%	22.8%
女性25～29歳(#206)	7.8%	11.2%	26.2%	32.0%	22.8%
女性30～34歳(#133)	6.0%	12.8%	26.3%	31.6%	23.3%
女性35～39歳(#69)	8.7%	10.1%	29.0%	21.7%	30.4%

(出所：恋愛調査2013:5)

年齢階層別にみると、男性では25～29歳の「欲しくない」割合は25.1%となった。年齢的に社会人になった人が多く、恋人よりも仕事優先で働きたいと考える人が多いためだろう。年齢階層別にみると、女性では20～24歳が「欲しい」割合が多く60.4%になった。大学生時代の女性は、オシャレや異性に敏感になる時期でもある。6割の人が恋人が欲しいと感じ、男性には有利な時期かもしれない。

#### 2-4 「恋人がいる人」「恋人が欲しい人」との違い(男性)

恋愛調査2013において、男性に対する意識や行動を以下の項目で比較すると、男性で大きく差が出たのは「好意を持った異性を食事に誘う(18.8%)」「メールをする(18.3%)」「電話をする(17.8%)」であった(表6)。全体的に「恋人がいる男性」の方が「恋人がいない(欲しい)男性」よりも、異性に対して積極的な傾向がみられ、「メールができる」男性は「恋人がいる男性」の約75%になった。好意を持った男性は異性にメールをしたり、食事に誘うなどアクションを起こすことが恋人をつくる鍵になるといえる。

好意を持った男性に対する態度の違いは何か。「恋人がいる人」「恋人がいない人（欲しい人）」を比較した。男性は「食事に誘う」「メールをする」などアクションを起こすことが恋人をつくる鍵である。

表 6 好意をもった異性に対する態度の違い（対象は男性）

	恋人が いる人 (#233)	恋人が欲 しい人 (#433)	いる人と欲 しい人の差 (%)
[好意をもった異性を] 食事に誘うことができる	59.7%	40.9%	18.8
[好意をもった異性に] メールをすることができる	74.7%	56.4%	18.3
[好意をもった異性に] 電話をすることができる	52.4%	34.6%	17.8
同性の友人と同じように異性の友人とも仲良くなれる	59.7%	46.7%	13.0
好意をもった異性に積極的に視線を送る	44.6%	32.1%	12.5
友人を介して、好意をもった異性に接近する	28.8%	18.0%	10.8
[好意をもった異性に] 話しかけることができる	62.2%	51.5%	10.7
異性に好意をもたれる（モテる）自信がある	17.6%	9.7%	7.9
今までに異性のことをどうしようもないくらい本気で好きになったことがある	68.7%	61.0%	7.7
異性が自分に好意をもっているかどうか分かる	20.2%	17.1%	3.1
好意をもった異性のことは人に聞いたたりして、いろいろと調べる	30.9%	27.9%	3.0
好意をもった異性にはウソをついてでも話を合わせしてしまう	24.9%	23.3%	1.6

(出所：恋愛調査 2013:6)

## 2-5 「恋人がいる人」「恋人が欲しい人」との違い（女性）

恋愛調査 2013 において、異性に対する意識や行動を以下の項目でたずね比較した。大きく差がでたのは、男性同様に「メールをすることができる（14.8%）」、ついで「今までに異性の事をどうしようもないほど本気で好きになった事がある（14.6%）」「電話できる（14.4%）」「異性が自分に好意を持っているかどうか分かる（13.9%）」と続く（表7）。全体的に「恋人がいる女性」の方が「恋人がいない女性（欲しい）」よりも、好意を持った異性に対して思いが強く、行為も積極的な傾向が強いようである。「メールできる」「どうしようもないほど好きである」は恋人がいる女性で割合が 69.0%ともっとも高かった。また、恋人がいる人の4割近くが「異性が自分に好意を持っているかどうか分かる（38.6%）」と回答している。男性の気持ちや行動に対する関心が高いといえる。面白いのが、男女の質問の「異性に好意を持たれる（モテる）自信がある」という項目である。恋人のいる男性は 17.6%に対し、同じく恋人のいる女性は 29.5%となった。同じ項目の恋人がいない男

性は、9.7%に対し、女性は、16.6%となった。同じ項目でも異性に対する自分の自信は女性の方が、自信家が多いことがわかる。

女性も男性同様にメールや電話など積極的なアプローチが恋人をつくるポイントになると言える。また女性は「恋人がいる人」の方が「恋人がいない人」よりも「異性を本気で好きになった経験」のある人が多い。

表 7 好意をもった異性に対する態度の違い (対象は女性)

	恋人が いる人 (#342)	恋人が 欲しい 人 (#373)	いる人と 欲しい人 の差(%)
[好意をもった異性に] メールをすることができる	69.0%	54.2%	14.8
今までに異性のことをどうしようもないくらい本気で好きになったことがある	69.0%	54.4%	14.6
[好意をもった異性に] 電話をすることができる	34.8%	20.4%	14.4
異性が自分に好意をもっているかどうか分かる	38.6%	24.7%	13.9
[好意をもった異性を] 食事に誘うことができる	36.8%	23.9%	13.0
異性に好意をもたれる(モテる)自信がある	29.5%	16.6%	12.9
同性の友人と同じように異性の友人とも仲良くなれる	65.5%	53.6%	11.9
[好意をもった異性に] 積極的に視線を送る	49.1%	37.5%	11.6
[好意をもった異性に] 話しかけることができる	59.6%	49.6%	10.0
好意をもった異性のことは人に聞いたりして、いろいろと調べる	44.4%	34.9%	9.5
友人を介して好意をもった異性に接近する	26.0%	19.6%	6.4
好意をもった異性にはウソをついてでも話を合わせてしまう	26.3%	20.4%	5.9

(出所：恋愛調査 2013:7)

## 2-6 婚活

マクロミル調査において、結婚したいと考えている人を対象として、「あなたは、結婚を目指して婚活をしていますか、過去にしたことがありますか」をたずねた。「現在、婚活をしている」と回答した人は 11.4%、「以前していたが、やめた」が 5.9%、「したことが無い」が 82.7%だった(表8)。性別にみると、男性で「している」と回答した人は 9.9%、女性は 13.4%となった。さらに年齢別にみると、女性は高齢層になるほど「以前していたが、辞めた」と回答する割合が高くなっており、35~39歳で 15.4%となっている。

また、マクロミル調査において、「今まで付き合った相手に結婚したいと思った人はいますか」と質問したところ、今まで付き合った相手に結婚したいと思った人が「いた」と回答した人は 46.4%、「いない」と回答した人は 53.6%となった(表9)。性別にみると、女



性で「いた」と回答した人は52.2%と男性に比べ9.8ポイント高くなっている。

表 8 性・年齢階層別の婚活（対象は、結婚したいと考えている人）

	現在、婚活 をしている	以前してい たが、やめた	したことが 無い
全体 (25～39 歳) (#421)	11.4	5.9	82.7
男性 (#242)	9.9	3.7	86.4
25～29 歳 (#113)	7.1	1.8	91.2
30～34 歳 (#89)	13.5	3.4	83.1
35～39 歳 (#40)	10.0	10.0	80.0
女性 (#179)	13.4	8.9	77.7
25～29 歳 (#94)	12.8	6.4	80.9
30～34 歳 (#59)	15.3	10.2	74.6
35～39 歳 (#26)	11.5	15.4	73.1

(出所は：マクロミル(2011:8) 図 10 をもとに筆者作成)

表 9 性・年齢階層別の今までに付き合った相手に結婚したいと思った人はいるか

	いた	いない
全体 (25～39 歳) (#500)	46.4	53.6
男性 (#297)	42.4	57.6
25～29 歳 (#131)	37.4	62.6
30～34 歳 (#106)	40.6	59.4
35～39 歳 (#60)	56.7	43.3
女性 (#203)	52.2	47.8
25～29 歳 (#101)	51.5	48.5
30～34 歳 (#68)	51.5	48.5
35～39 歳 (#34)	55.9	44.1

(出所：マクロミル(2011:11) 図 16 をもとに筆者作成)

付問で自由回答方式により、結婚したいと思った人はいたが、結婚に至らなかった理由をたずねたところ、「タイミングが合わなかった」「経済的に安定していなかった」「若かったから」といった意見が多く見受けられた。

## 2-7 恋人との年齢差と付き合える相手の年齢幅

恋愛調査 2013 において、現在恋人がいない未婚の男女につき合える相手の上限・下限年齢をたずねたところ、「年下の彼女」とつき合っている男性は54.1%であった(表 10)。「年上の彼」とつき合っている女性は60.2%であった。現在恋人がいる20代から30代の男女575人に交際相手の年齢をたずねたところ、「同い年」は男性で約23.2%、女性では約19.9%となった。年上・年下の割合を性別で比較すると、男性は年下の女性とつき合う傾向があ

るのに対し、女性は年上の男性とつき合う傾向にあり、「自分より10歳以上年上」の相手と交際している女性は12.6%であった。

表 10 性別の恋人との年齢差 (対象は現在恋人がいる未婚の男女(N=575))

	男性の相手 (#233)	(年上・ 年下割 合)	女性の相手 (#342)	(年上・年下割合)
(自分よりも)10歳以上年下	5.2%	54.1%	0.3%	19.9%
(自分よりも)7~9歳年下	5.6%		0.6%	
(自分よりも)4~6歳年下	9.4%		3.5%	
(自分よりも)3歳年下	4.7%		3.2%	
(自分よりも)2歳年下	12.9%		2.6%	
(自分よりも)1歳年下	16.3%	23.2%	9.6%	19.9%
(自分と) 同い年	23.2%		19.9%	
(自分よりも)1歳年上	8.2%		14.6%	
(自分よりも)2歳年上	2.1%		7.6%	
(自分よりも)3歳年上	3.0%		6.4%	
(自分よりも)4~6歳年上	5.2%	22.7%	11.7%	60.2%
(自分よりも)7~9歳年上	1.7%		7.3%	
(自分よりも)10歳以上年上	2.6%		12.6%	

(出所：恋愛調査 2013:8)

つき合える相手の年齢幅は、男性は「20歳前後を下限とし、上限は30代後半にかけて自分の年齢に近づく」傾向にあった。女性では「自分の年齢上昇にほぼ比例する形で下限と上限が変動する」傾向にあった。現在恋人がいない未婚の男女につき合える相手の上限・下限年齢をたずねたところ、男性ではすべての年齢階層で女性の下限年齢を20歳前後とし、上限年齢は20代では5歳程度年上、30代後半に向かうにつれ自分と同年齢に近づく。一方、女性は自分の年齢が上がるにつれて相手の男性の上限・下限年齢ともに上がる傾向がみられ、20代の女性では10歳程度年上を上限とする傾向がみられる。さらに30代前半の女性では41歳前後の男性を、30代後半の女性では45歳を男性の上限年齢とする傾向がみられる。

## 2-8 現在の恋人とどこで知り合ったか

リビジョン調査において、「現在、恋人がいる」と回答した87人に対して、「あなたは現在の恋人とどこで知り合いましたか」というたずねたところ、「学校」が32.2%。「友人の紹介」が17.2%。「職場」が16.1%。「ネット (facebook, twitter, 出会い系、サイト等)」

中沢 佐智子「男女の恋愛実態と恋愛観から観る結婚について」  
(2014年1月10日提出 ゼミ卒業論文)

が16.6%。「サークル」が4.6%、「合コン」が4.6%、「ナンパ」が5.7%、「その他」が3.5%  
となった(表11)。

表 11 現在の恋人とどこで知り合ったか(N=87)

学校	32.2%
友人の紹介	17.2%
職場	16.1%
ネット (facebook, twitter, 出会い系、サイト等)	16.1%
サークル	4.6%
合コン	4.6%
ナンパ	5.7%
その他	3.5%

(出所：リビジョン調査)

## 2-9 恋人がいない期間

リビジョン調査において、「現在、恋人がいない」と回答した113人に対して、「恋人がいない期間はどのくらいですか?」と質問したところ、「1年未満」が14.2%、「1年以上3年未満」が24.8%、「3年以上5年未満」が8.0%、「5年以上7年未満」が6.2%、「7年以上10年未満」が4.4%、「10年以上」が2.6%、「今まで恋人がいたことはない」が39.8%となった(表12)。

表 12 恋人がいない期間(N=113)

1年未満	14.2%
1年以上3年未満	24.8%
3年以上5年未満	8.0%
5年以上7年未満	6.2%
7年以上10年未満	4.4%
10年以上	2.6%
今まで恋人がいたことは無い	39.8%

(出所：リビジョン調査)

## 2-10 今までに付き合った人数

リビジョン調査において、「今まで恋人がいたことはない」と回答した45人を除く155人に対して、「あなたが今までに付き合った女性の人数を教えてください」と質問したところ、「1人」が13.5%、「2~3人」が41.3%、「4~5人」が22.6%、「6~7人」が8.4%、「8~9人」が6.5%、「10人以上」が7.7%となった(表13)。

表 13 今までに付き合った人数(N=155)

1人	13.5%
2～3人	41.3%
4～5人	22.3%
6～7人	8.4%
8～9人	6.5%
10人以上	7.7%

(出所：リビジェン調査)

## 2-11 彼氏・彼女にしたい人へのアプローチ

マクロミル調査において、男性に彼女にしたい人がいたらどんな行動をとるかをたずねると「積極的に自分からアプローチする」という回答が31.2%であった(表14)。一方、「相手からのアプローチを待つ」が17.2%、積極的にいくか待つかは「どちらともいえない」が51.9%と、積極的にはアプローチしない男性は約7割であった。さらに20代前半の男性では、「相手からのアプローチを待つ」が32.0%であった。

性・年齢階層別にみると、積極的にアプローチする25～29歳の割合が男女ともに高いが、男性35.1%なのに対し、女性は37.6%とここだけ女性の方が男性よりも2.5%も高い。草食化する男性を前に待ってばかりはいられない状況のようである。女性は、先行き不安な将来に結婚願望が高まるようである。

表 14 性・年齢階層別の彼氏・彼女にしたい人へのアプローチ

	積極的にア プローチする	どちらともいえない	相手のアプ ローチを待つ
全体(25～39歳)(#500)	31.2%	46.0%	22.8%
男性(#297)	31.0%	51.9%	17.2%
25～29歳(#131)	35.1%	48.1%	16.8%
30～34歳(#108)	32.1%	50.0%	17.9%
35～39歳(#60)	20.0%	63.3%	16.7%
女性(#203)	31.5%	37.4%	31.0%
25～29歳(#101)	37.6%	30.7%	31.7%
30～34歳(#68)	27.9%	42.6%	29.4%
35～39歳(#34)	20.6%	47.1%	32.4%
男性20～24歳(#50)	36.0%	32.0%	32.0%
女性20～24歳(#50)	30.0%	26.0%	44.0%

(出所：マクロミル(2011:10)図14をもとに筆者作成)

### 3 結婚

#### 3-1 男女の将来結婚したいと思う割合

マクロミル調査において、25～39 才の未婚男女に、将来結婚したいと思うかたずねたところ、「今すぐにでも結婚したい」と回答した人は 13.4%、「結婚したい」が 36.6%、「できれば結婚したい」が 34.2%となり、合計で 84.2%の人が「結婚したい」と回答した（表 15）。

表 15 性・年齢階層別の将来結婚したいと思うか

	今すぐ結婚したい	結婚したい	できれば結婚したい	あまり結婚したくない	結婚したくない	合計
全体 (25～39 歳) (#500)	13.4%	36.6%	34.2%	10.0%	5.8%	84.2%
男性 (#297)	12.8%	33.7%	35.0%	11.4%	7.1%	81.5%
25～29 歳 (#131)	13.7%	36.6%	35.9%	6.1%	7.6%	86.3%
30～34 歳 (#108)	10.4%	34.0%	39.6%	10.4%	5.7%	84.0%
35～39 歳 (#60)	15.0%	26.7%	25.0%	25.0%	8.3%	66.7%
女性 (#203)	14.3%	40.9%	33.0%	7.9%	3.9%	88.2%
25～29 歳 (#101)	16.8%	48.5%	27.7%	4.0%	3.0%	93.1%
30～34 歳 (#68)	13.2%	38.2%	35.3%	7.4%	5.9%	86.8%
35～39 歳 (#34)	8.8%	23.5%	44.1%	20.6%	2.9%	76.5%
男性 20～24 歳 (#50)	8.0%	36.0%	36.0%	14.0%	6.0%	80.0%
女性 20～24 歳 (#50)	16.0%	42.0%	30.0%	10.0%	2.0%	88.0%
{前回} 全体 25～39 歳	10.8%	30.0%	37.9%	14.8%	6.6%	78.6%
{前回} 男性合計	9.4%	28.5%	41.0%	15.9%	5.2%	78.9%
{前回} 女性合計	12.7%	32.2%	33.3%	13.3%	8.6%	78.2%

(出所：マクロミル(2011:2)図 1 をもとに筆者作成)

2年前に実施した調査と比較すると女性で「結婚したい（今すぐにでもしたい+したい+できればしたい）」という回答が 88.2%と前回調査（78.2%）に対し、10 ポイント高くなっている。今回調査での女性の結婚願望は2年前より増加している。

#### 3-2 恋人に求めるものと結婚相手に求めるもの

マクロミル調査において、恋人に求めるものをたずねたところ、男女ともに 1 位は「優しい」で 4 割超である。ついで男性が恋人に求めるものは「顔が好み」が 3 割、女性では「金銭感覚が合う」「経済力」が 2 割超となっている（表 16）。

マクロミル調査において、それでは「結婚相手」に何を求めるかをたずねると、男性では恋人同様に「優しい」が 42.4%で圧倒的多数であるのに対し、女性では「経済力」が 40.4%

でトップとなった(表17)。女性は男性に比べ現実的なものを求めており、特に「結婚相手」として考える場合は経済力を一層重視している。「恋人に求めるもの」「結婚相手に求めるもの」では、「優しい」「金銭感覚が合う」「真面目」など内面的な項目が共通していた。また女性では「浮気しない」という項目が必ず入っている。女性は男性が浮気をしない人を条件として入る。

表 16 恋人に求めるもの

順位	男性(#297)	%	順位	女性(#203)	%
1	優しい	42.4%	1	優しい	44.3%
2	顔が好み	29.6%	2	金銭感覚が合う	24.6%
3	明るい	23.6%	3	経済力がある	23.6%
4	趣味が合う	21.9%	4	趣味が合う	19.2%
5	金銭感覚が合う	18.5%	5	頭の回転が速い	18.2%
6	気が利く	12.8%	6	リードしてくれる	12.8%
7	笑いのツボが合う	12.1%	7	真面目	12.8%
8	料理が得意	11.8%	8	浮気しない	12.3%
9	セックスの相性が良い	11.8%	9	笑いのツボが合う	11.8%
10	スタイルが好み	10.4%	10	顔が好み	11.3%

(出所：マクロミル(2011:10)図15をもとに筆者作成)

表 17 結婚相手に求めるもの

順位	男性(#297)	%	順位	女性(#203)	%
1	優しい	42.4%	1	経済力がある	40.4%
2	明るい	24.6%	2	優しい	35.5%
3	顔が好み	19.9%	3	金銭感覚が合う	26.6%
4	趣味が合う	19.2%	4	趣味が合う	17.2%
5	金銭感覚が合う	18.9%	5	真面目	15.8%
6	気が利く	17.5%	6	浮気しない	13.3%
7	料理が得意	15.8%	7	笑いのツボが合う	12.8%
8	真面目	15.5%	8	頭の回転が速い	12.3%
9	笑いのツボが合う	9.4%	9	タバコを吸わない	11.3%
10	浮気しない	9.4%	10	コミュニケーション力がある	9.9%

(出所：マクロミル(2011:4)図4をもとに筆者作成)

### 3-3 結婚生活後のスタイル

マクロミル調査において、結婚後どのような生活スタイルを希望しているかたずねたところ、男性の67.8%が「夫婦共働き」を希望した(表16)。女性も同様に64.8%が「夫婦共

働き」と回答する一方で「専業主婦」を希望する女性が33.5%おり、男性が「妻が専業主婦」と回答した割合28.1%を上回っている。

表 18 性・年齢階層別の結婚後の生活スタイル

	夫が働き、妻が専業主婦	夫婦共働き	その他
全体 (25～39 歳) (#500)	30.4%	66.5%	3.1%
男性 (#297)	28.1%	67.8%	4.1%
25～29 歳 (#131)	28.3%	67.3%	4.4%
30～34 歳 (#108)	28.1%	68.5%	3.4%
35～39 歳 (#60)	27.5%	67.5%	5.0%
女性 (#203)	33.5%	64.8%	1.7%
25～29 歳 (#101)	30.9%	68.1%	1.1%
30～34 歳 (#68)	42.4%	55.9%	1.7%
35～39 歳 (#34)	23.1%	73.1%	3.8%
男性 20～24 歳 (#50)	40.0%	52.5%	7.5%
女性 20～24 歳 (#50)	45.5%	50.0%	4.5%
{前回} 全体 25～39 歳	28.7%	67.2%	4.1%
{前回} 男性合計	24.2%	71.0%	4.8%
{前回} 女性合計	35.5%	61.5%	3.0%

(出所：マクロミル(2011:5)図6をもとに筆者作成)

かつては、女性は結婚したら専業主婦になるのが当たり前の時代もあった。これは男性の収入が低下したため、また女性の社会進出が夫婦共働きを望む男女の割合が増えた結果であろう。

### 3-4 結婚したくない理由

マクロミル調査において、結婚したくないと回答した人に、結婚したくない理由をたずねた(表20)。回答が多かったのは、「自由な時間が少なくなるから」が59.5%でもっとも多く、ついで「行動に制限ができるから」が46.8%、「自由になるお金が減るから」「相手の両親や親戚との付き合いが面倒だから」がそれぞれ45.6%、「経済的負担が大きくなる」が38.0%、「ストレスがたまりそう」と「精神的負担が大きい」がそれぞれ31.6%、「家族を扶養する自信がない」が30.4%、であった。

表 19 結婚したくないと思う理由 (N=79)

自由な時間が少なくなる	59.5%
行動に制限ができる	46.8%
自由になるお金が減る	45.6%
相手の両親や親戚との付き合いが面倒	45.6%
経済的負担が大きくなる	38.0%
ストレスがたまりそう	31.6%
精神的負担が大きい	31.6%
家族を扶養する自信がない	30.4%
結婚式や披露宴の資金がない	20.3%
友人と遊びづらくなる	16.5%
家族・育児をしたくない	15.2%
恋愛が自由にできない	12.7%
仕事がやりづらい	11.4%
親元を離れたくない	3.8%
その他	10.1%

(出所：マクロミル(2011:3)図3をもとに筆者作成)

### 3-5 結婚に対する考え方

マクロミル調査において、結婚に対する考え方について、「そう思う」、「どちらかといえば、そう思う」、「どちらかといえば、そう思わない」、「そう思わない」という4カテゴリーで回答してもらった(表20)。その結果、「結婚に重要なのは経済力である」という項目に対して「そう思う」(22.4%)という回答と「どちらかといえば、そう思う」(55.8%)という回答を足した「そう思う計」は78.2%で、前回調査に比べ約7ポイント高くなっていた。しかし、「自分の将来が不安で、結婚を考える余裕はない」と回答する男性は50.5%を占めており、長引く不況が影響して結婚に進展できない男女がいることが推測される。

また、男性の71.0%が、「同棲をしてから、結婚するか決めたい」と考えており、結婚に対する慎重な態度がうかがえる。さらに、結婚式や披露宴に関して73.1%の男性がわずらわしいと考えている。「結婚のメリットが見出せない」と考えている人は男女とも約3割おり、特に女性では年齢が高いほどその割合が高く、35~39才で55.9%に達している。

結婚後の生活について、「そう思う計」は、全体では「結婚しても生活レベルは落としたいくない」が90.4%、「結婚しても夫婦別々の自由な時間を持ちたい」が88.8%であった。性別に見ると、「結婚しても生活レベルは落としたいくない」の「そう思う計」は、女性では94.1%と回答が多かった。つまり、結婚後へのこだわりが結婚に進展しないハードルになっているのかもしれない。



表 20 結婚に対する考え方

			そう 思う 計	そう 思う	どちら かとい えば、 そう思 う	どちら かとい えば、 そう思 わない	そう 思わ ない
結婚 する にあ たって	結婚に重要な は経済力である	全体(#500)	78.2	22.4	55.8	18.0	3.8
		前回の全体(#837)	71.7	18.4	53.3	24.1	4.2
	自分の将来が不 安で、結婚を考え る余裕はない	全体(#500)	42.2	11.4	30.8	36.4	21.4
		男性計(#297)	50.5	13.5	37.0	33.3	16.2
		女性計(#203)	30.0	8.4	21.7	40.9	29.1
	同棲をしてから、 結婚するか決め たい	全体(#500)	67.6	23.8	43.8	21.6	10.8
		男性計(#297)	71.0	23.2	47.8	21.2	7.7
		女性計(#203)	62.6	24.6	37.9	22.2	15.3
	結婚式や披露宴 はわずらわしい	全体(#500)	69.4	30.8	38.6	21.0	9.6
		男性計(#297)	73.1	34.7	38.4	18.9	8.1
		女性計(#203)	64.0	25.1	38.9	24.1	11.8
	結婚のメリット が見出せない	全体(#500)	32.0	8.8	23.2	42.6	25.4
男性計(#297)		30.6	7.7	22.9	45.5	23.9	
女性計(#203)		34.0	10.3	23.6	38.4	27.6	
女性 25～29 才 (#101)		26.7	5.9	20.8	34.7	38.6	
女性 30～34 才(#68)		33.8	11.8	22.1	48.5	17.6	
結婚 後の 生活 につ いて	結婚しても生活 レベルは落とし たくない	全体(#500)	90.4	50.8	39.6	8.4	1.2
		男性計(#297)	87.9	43.8	44.1	10.1	2.0
		女性計(#203)	94.1	61.1	33.0	5.9	0.0
	結婚しても夫婦 別々の自由な時 間を持ちたい	全体(#500)	88.8	38.2	50.6	9.2	2.0
		男性計(#297)	86.9	33.0	53.9	10.8	2.4
		女性計(#203)	91.6	45.8	45.8	6.9	1.5

(出所：マクロミル(2011:6)図7をもとに筆者作成)

### 3-7 将来的に子どもが欲しいか

マクロミル調査において、独身男女に将来的に子どもが欲しいと思うかたずねたところ、「欲しい」(43.4%)と「できれば欲しい」(25.8%)と回答した人とを足した「子どもがほしい計」は、69.2%だった(表21)。

性別にみても、「子どもがほしい計」は、男性が70.0%、女性が68.0%と、男女ともに約7割と大きな差はなかった。

年齢別にみると25～29歳では、「子どもがほしい計」は、男性が74.8%、女性が74.3%と、70%台であった。また、30～34歳では、「子どもがほしい計」は、男性が72.6%、女性が67.6%と、約7割であった。しかし、35～39歳になると、「子どもがほしい計」は、男性が55.0%、女性が50.0%と、男女ともに50%台に低下した。

表 21 性・年齢階層別の子どもが欲しいか

	子どもが ほしい計	ほしい	できれ ばほし い	どちらと もいえな い	できれば ほしくな い	ほしく ない
全体 (25～39 歳) (#500)	69.2	43.4	25.8	18.6	4.6	7.6
男性 (#297)	70.0	41.1	29.0	18.9	4.0	7.1
25～29 歳 (#131)	74.8	48.9	26.0	16.0	1.5	7.6
30～34 歳 (#106)	72.6	42.5	30.2	16.0	6.6	4.7
35～39 歳 (#60)	55.0	21.7	33.3	30.0	5.0	10.0
女性 (#203)	68.0	46.8	21.2	18.2	5.4	8.4
25～29 歳 (#101)	74.3	52.5	21.8	12.9	7.9	5.0
30～34 歳 (#68)	67.6	48.5	19.1	20.6	1.5	10.3
35～39 歳 (#34)	50.0	26.5	23.5	29.4	5.9	14.7
男性 20～24 歳 (#50)	72.0	46.0	26.0	14.0	6.0	8.0
女性 20～24 歳 (#50)	70.0	48.0	22.0	20.0	2.0	8.0
前回計 (#837)	63.9	35.4	28.6	19.5	5.6	11.0
前回男性計 (#498)	65.3	34.9	30.3	19.9	6.0	8.8
前回女性計 (#339)	61.9	36.0	26.0	18.9	5.0	14.2

(出所：マクロミル(2011:7)図8をもとに筆者作成)

## まとめ

以上の結果から、現代の若者は恋愛や結婚に対しての願望が強く、将来的に子づくりを考えている傾向が強い。しかし、相手選びの段階で自分から積極的になれずアクションを起こせない若者が多くいることが明らかになった。また、恋人がいる人でも、結婚となると金銭問題や周辺環境の変化に対応するのが難しく、一步踏み出すことができなくなっていることもわかった。結婚しても仕事はお互いに続けたいという考えから、子どもをつくらなかったり、タイミングを先延ばしにしているうちに子どもをつくれなくなる夫婦も少なくないようだ。

異性に対して恋人になって欲しいと考え、行動を起こすのは、恋人がいることで「嬉しい」「楽しい」だけでなく「精神的安定」や「困難時の支え」もある恋愛生活は重要であるともいえる。恋人が欲しいと考えても、相手が自分をどう考えているか相手の気持ちから分からないと自分から告白することができないという草食的傾向にある。男性は女性に比べ、今まで過去の恋愛で本気で好きになった人が少ないことかわかった。「恋愛」というものに対し、男性は成り行きやたまたまなど相手に押されて付き合っていることもあった。「恋人がいれば生活がどのように変わるか」(現在恋人がいる未婚者)では、男性の方が、恋人がいると女性よりも面倒に感じる事が多くあるようだ。自由な時間や人づきあいが面倒に

感じる男性が多い結果、付き合っていると満足を感じる部分と面倒になる部分から男性にかかるストレスは大きい。

恋人に求める条件としては男女ともに「優しい」「明るい」「気が合う」「真面目」など表面的なものから、努力や気持ち次第で現れる項目が多く感じた。しかし結婚となると女性の価値観は変わってくる。結婚相手に求める条件として、1番になったのが「経済力」だった。やはり不安になる結婚生活後や子どもを条件に入れると「経済力」は必要不可欠な項目になる。

現在の恋人との出会いでは、学校、職場、友人の紹介など、やはり相手の顔がみられ、関わりが持てる場所や出会い型の方が恋人になりやすいことがわかった。恋人がいない期間でも、最近の若者にみられる奥手な一面からか、今までに恋人がいたことがない人が39.8%と断トツだった。恋人がいないまま学生時代を終え、仕事に費やす女性が多くなっているのも結婚率が低下に繋がっている原因だと考える。付き合った人数は2~3人が一番多く41.3%だった。1人の相手と長く付き合うことでお互いをよく知り、信頼できる人数の現れだと思う。

恋愛や結婚はタイミングだと思う。自分が望まない人や時期に焦って結婚をしても結果として離婚するリスクが高くなるだけだと思う。女性であっても仕事は続けながら立派に子育てをしている人はたくさんいる。その中で自分がどういった選択をこれからしていくのか。恋愛や結婚に正解や明確な答えはないが、現代の人々が選んだ結果がこの結婚率低下や少子化に繋がった実態だと思う。

#### 【参考文献】

厚生労働省(2010)「第7回21世紀成年者縦断調査(国民の生活に関する継続調査)結果の

概況」<http://www.mhlw.go.jp/toukei/saikin/hw/judan/seinen10/dl/all.pdf>

マクロミル(2011)「結婚と恋愛に関する調査 | マクロミル」  
[http://www.macromill.com/r\\_data/20110204renai/20110204renai.pdf](http://www.macromill.com/r_data/20110204renai/20110204renai.pdf) (本稿では「マクロミル調査」と略す。)

リクルートブライダル総研(2013)「恋愛観調査2013」  
[http://bridal-souken.net/data/ra/RA01\\_release.pdf](http://bridal-souken.net/data/ra/RA01_release.pdf) (本稿では「恋愛調査2013」と略す。)

Vector Group, PR TIMES Inc. (2013年8月22日)「20代男性に浮気調査「経験あり」は

中沢 佐智子「男女の恋愛実態と恋愛観から観る結婚について」  
(2014年1月10日提出 ゼミ卒業論文)

3 割 | 株式会社リビジェンのプレスリリース」  
<http://prt看imes.jp/main/html/rd/p/000000009.000007774.html> (本稿では「リビジェン調査」と略す。)